生涯学習の現状と今後について



質問者
平野　由里子　議員

松田町の生涯学習は近年、人口減少や高齢化もあって停滞気味ではないかと懸念する。

質 **昨年度、生涯学習推進課が教育課より独立したが、独立の目的に沿う形に展開されているか。**

答 これまでの教育課の生涯学習事業を継承しつつ、成果を上げてきている。町民の自主的な学びを支え、地域還元に繋げていく。

質 **令和6年度より生涯学習センターの利用料が改定されたが、利用状況と、登録団体の現状及び活動支援について。**

答 令和6年4月の利用料改定後も安定した利用状況である。登録団体はコロナ前からは半減したが、その後20団体前後を推移している。会員の高齢化や役員の担い手不足、新規会員の確保難といった課題がある。町は相談対応し、寄り添った支援を行なっている。

A



町民の自主的な学びを支え、地域還元につなげる

回答（教育長）

質 **総合計画・アクションプログラムで掲げた、生涯学習、地域文化の創造、スポーツ・レクリエーションはどの程度実現しているか。また、子どもの館・自然館は公園・緑地の項に取り上げられているのみだが、生涯学習的側面はどのように考えるか。**

答 総合計画で掲げた施策は概ね実現できている。子どもの館・自然館は総合計画上は公園施設に分類されているが、自然観察、環境教育、親子交流など生涯学習を支える極めて重要な機能を担っている。両施設を単に公園の付属施設としてではなく、自然と文化を生かした「体験型生涯学習の拠点」と位置づけ、観光部門と教育委員会が連携して活用を図る。



子どもの館

「子育て世帯から選ばれる町」になるために

松田幼稚園の認定こども園化・学童保育の待機児童・学校プールの地域解放・教育施策のデータ検証



質問者
北村　和士　議員

質 **来年4月1日の開園を予定している松田幼稚園の認定こども園化で、具体的に何が変わりますか。**

答 新たに保育機能を拡充し、満3歳児から受け入れる。保育を必要とする家庭は、保護者の就労状況などに応じて長時間の保育を利用できるようになる。

質 **6月議会時に生じていた学童保育の待機児童は解消しましたか。**

答 利用状況の見直し等により、8月1日時点で待機児童はゼロとなった。一方、共働き世帯の増加や利用料無償化により、年度当初や夏休みには再び受入れ調整が必要となる可能性があるため、来年度は申込み時期を前倒しし、早期に利用希望者数を把握する方向で検討している。

質 **今年は学校プールの地域開放を中止しましたが、今後はどうしますか。**

答 酷暑により、令和7年度は37日の開放可能日のうち、実際に開放できたのは松田中学校6日、寄小学校15日にとどまった。安全面から今年度は中止したが、来年度以降は施設の暑さ対策や、代替となるこどもの居場所づくりについて、地域の力も借りながら検討していきたい。

A



子どもたちの未来や可能性を広げるため、施策の効果も見極めながら、できることから進めていく！

回答（町長）

質 **教育施策も「やって終わり」ではなく、その施策の目的から考えて、必要なデータを取得し、効果を検証すべきだと考えますが、ご見解は。**

答 データに基づく効果検証の重要性は認識している。テスト結果だけでなく、アンケートや既存データなども活用し、「何人参加したか」だけでなく「こどもたちにどのような変化が生まれたか」という成果についても、学校現場に過度な負担をかけないよう配慮しながら検証していきたい。

このページは、質問者本人の原稿を尊重し編集しています。